

## 週日の説教

金トマス・アクィナス 神父 2010年1月26日(火)

(金 大烈・ザベリオ神父様の同時通訳にて)

### 《この世で一番完璧な『平和』》

お久しぶりです。一年ぶりになりますね。皆様にお会いできて、本当に嬉しいです。ご家族のいろいろなことで、特別に悪かったことはありませんよね、皆様。

私のいる甘谷(ガムゴク)聖地は、冬になると少し余裕ができましたので、弟を見に参りました。その聖地に来られた方もいらっしゃると思いますが、韓国の中で一番大きい聖母の聖地です。一年間に10万人くらいの巡礼客が訪れています。司牧の仕事のせいでしょうか、一年があっという間に過ぎてしまう気がします。聖地に来られる巡礼客を迎えるだけでなく、いろいろなところから黙想指導のために呼ばれています。ですから、結構暇のない生活をしています。気持ちとしては、3ヶ月に一回くらいは弟のところに来てみたいのですが、それは無理だと思います。私のことが気になって、会いたくなくても我慢をしてください。(笑い) 皆様。一年に1回くらいならば、お会いできるでしょう。

今日見ましたら、初めてお目にかかる方が何人かいらっしゃいますね。既に紹介されたと思うのですが、私は金サベリオ神父の兄です。

今日の福音(ルカ 10・1 9)を少し黙想させていただきます。イエス様が「どこの家に訪問しても、まず平和を願ってください。」とおっしゃった、という話でした。

『平和』というものは、やはりわかまえが必要です。“天からくだる『平和』もあるし、この世から来る『平和』もあります。”他の言葉で言い換えれば、“神様がくださる、神様が許される『平和』もあるし、人間同士が交わす『平和』もあります。”

神様からいただく『平和』は、完璧なものです。しかし多くの人々が、その神様からの『平和』をあまり感じられずにいます。『平和』を求めるために、どこかへ探しに行こうとしている気がします。しかし神様がくださる『平和』というのは、探すものではなくて見いだすものです。たとえば、自分の家庭の中で、神様から許された『平和』を見つけることができなければ、何処に行ってもその『平和』は見つけれません。聖書の中では『平和』という言葉は、『恵み』と同じ意味で使われています。そして同じように、『恵み(恩寵)』<sup>おんちよう</sup>というものも、探しにあちこちさまようものではなく、まず自分の中で見つけるものです。結局、自分の家族が『恵み(恩寵)』です。自分の心を痛める夫が『恵み』です。自分のお金を奪って逃げてしまった人が、ある意味では『恵み』です。敵のようなその人も、実際には『恵み』です。そういう意味で、私たちはその『恵み』、『平和』を探すためにあちこちさまようのではなくて、へりくだる心で見つけようと努力することが必要です。そして、見つけたら必ずしなければならないことは、『告白』です。表さなければなりません。「私はあなたの『恵み』のうちに生きております。」ということ表現しなければなりません。

カトリック信者には、足りないことが一つあります。それは、神様からいただいた『恵み』について、表現することです。私たちは、表現するのが苦手です。世の中の信者でない人々には、カトリック信者が本当に喜んで、嬉しい生活をしているのかどうか、全然分かりません。『恵み』をいただければ、

何よりもまず顔に表れます。暗い表情でなく、明るさが表れます。そして、人を傷つける言葉を口にしなくなります。人の目を意識してそのようにするのではなく、本当に心をこめてそのようになります。

神様の『恵み』『平和』というものは、完璧なものです。しかし、探そうとあせる心では、見つけれないのです。

二つ目の『平和』は、世の中から与えられる『平和』、すなわち人間と人間の間で交わす『愛』だと申しあげました。しかし、人と人との間で、あげたりもらったりする『平和』は、壊れやすいものです。とても努力が必要です。一番大事なことは、信頼することです。信頼が崩れてしまうと、当然『愛』も『尊敬』も全部崩れてしまいます。なぜ夫婦の間で『平和』が壊れてしまうのでしょうか。それは、信じる心が崩れてしまうからです。なぜ小教区の担当司祭と信者の間で、『平和』が壊れてしまうのでしょうか。その理由も不信感が生じたからでしょう。そういう意味で、『愛』と『尊敬』よりもっと大事なものは、『信じる心』です。その心によって、正しい平和が与えられます。しかし私たち人間は、常に不安な状態で生きています。『信頼』とか『信じる心』は、いつも壊れやすい状態にあります。ですから、接着剤が必要です。『信じる心』が壊れないように接着剤の役目をするのは、私たち信者にとっては、やはり何といたっても『祈り』でしょう。もし、今まで好きだった人がある日突然嫌いになったとしたら、まずお祈りする心を持ってください。誰かに対して憎しみが生じたら、その時、まず祈ろうとすることが必要です。粘り強く祈ろうとすれば、人とのかかわりにはいつも平和がもたらされます。

神様からいただく『平和』と人間の間で作る『平和』について、簡単に説明させていただきました。しかし、実はこの二つの種類の『平和』は、別々のものではなくて一体のものです。神様と自分との間の『平和』が壊れてしまうと、人との関係の中でも『平和』を保てなくなります。逆に、人間と人間との間の『平和』が崩れてしまうと、神様との関係も遠くなってしまいます。そういう意味で、イエス様がおっしゃったみ言葉がありますね。イエス様は、「祭壇に奉納物を捧げる前に、喧嘩をした人と和解ができていなければ、まず和解してから捧げなさい。」とおっしゃいましたね。

今日の福音でイエス様は、「どの家に行ってもどの家庭に行っても、必ずまず平安な心、平和を伝えなさい。」とおっしゃいました。その『家』というのは、外の『家』ではなくて、まず皆様のそれぞれの『心』です。神様がいらっしゃる自分の『心』という『家』が、平和を保てないのに、どうして人々に平和について話せるのでしょうか。

カトリック信者は、本当にお恵みのうちに生きています。それは、各自がご聖体受けて置く器だからです。ご聖体をいただくことによって、自分も『平和』なものになります。イエス様は、「人に平和を伝えなさい」とおっしゃただけでなく、ご自分がご聖体の形になって私たちそれぞれのところに来てくださいます。ご聖体というものを知らない人にとっては、それは何の意味もないものでしょう。ただ、小さい麦のパンのような感じでしょう。しかし、ご聖体について深く味わうことができれば、心理的な体験とともに、私たちには涙を流さずにはいただけない存在になるでしょう。もし、人との関わりに問題があったならば、このミサを通して癒しを求めましょう。そして神様との関係で平和が崩れてしまったならば、何よりも赦しを求めましょう。この世の中で一番完璧な『平和』は、神様を自分の中に迎え入れること、受け入れること、であることを絶対忘れないでください。

今日のミサを通して、この世の中が与えられない完璧な『平和』をくださるために、イエス様がご聖体の形になって皆様を迎えていることに感謝しましょう。ご聖体をいただくときには他の言葉はいりません。ただ一言、「主よ、私は罪人です。慈しみをください。」とおっしゃってください。それ以上の言葉は傲慢です。

今日、そのような心でご聖体をいただき、平安な心を保つようお願い致します。

ありがとうございました。